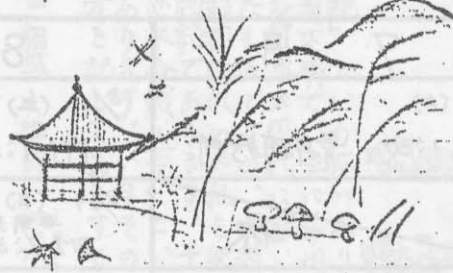


酒々井町
郷土研究会々報

第13号
昭和54.10.30
酒々井町郷土研究会総務部

9/18. 9/21
史跡見学会
— 神埼 — 鉦子方面 —



九月十八日。はれ。三十三名は、宗音参道から成田の中心街と庄手にみて滑川観音に下車。境内を一巡して神埼西の城貝塚へとむかう。

貝塚の精かもし秋の蜩蝶

天和観の貝塚。あたり一面に草のよう光る。翅の白くぼくあせに蜩蝶が飛び交う様はそれほよるで現代に生と受けつる貝塚の精の玉迎えのよう。一瞬、幻覚的に眼に映った。いにしへのロマンと訪ねる者へのみ味合える瞬間。

水郷地帯はさすがに早稲米の産地。遠くまで展けた刈田に「稲」が伸びて稲架ひとつ見あたらない。ところどころに陣が流れ白鷺がゆうくと翔ぶ。水郷の秋。

利根の川風祀に入れテ。元代三川勝太郎の名調子。天原水滞伝、その発端地といわれる諏訪神社に佇ま。

繁茂したとて「野見の宿禰の碑」と見て。カ士の祖といわれる宿禰が「たいまのけはやし」と投げとばした。あの砂のどびらる画を見て「あ、だから雲の宿禰か」と、野見を食にしてしまったもう六十年も昔の幼稚な記憶がこんな場所であらうと感懐をさす。思ひ出す。クスリ!

廻廊と行く靴音も秋の情

静かな境内は。まだ半熟の銀杏がせつからに五つ六つ落ちて貴栗にはまだ人の一分程度落葉というより。夏の病葉あくらしという感じ。名代「仁徳」んごののれんと横目でにらみ次の猿田神社にて昼食。

高い石段と登りつめると左に水屋があり、御手洗の水は底から湧いて冷たく長柄がよい。手を清めたり、口にふくんだり。みどりへ登ると秋の暑さし

拝殿は南花の扉。奥殿の裏側は山が急勾配に迫って秋草が盛り、一巡して思いの跡河で守る。ひらける。御手洗へ寶銭がひらひら沈む。弾の音も登って聞こえる

みだらしの杓にとまれよ赤とんぼ

体長の短い赤とんぼがまだ幼い赤とんぼは低くすいすいとわけなく補えられそうだが、うす絹のような翅が破れそう。飛び交う様と送う。

バスは次の常世白薬師へ

燈のぼりつめれば露の仁王門

磐石に神樂殿古り法師の燈

石段と眺めて水の度下りて来る

高き高い薬師堂は今にも崩れそう。のぞく内陣もはの時。江戸から明治にかけて。常世田の薬師様として近隣の信仰を集めてきた本尊の薬師。如來座像は藤原後期の作と推

走される。国の重要文化財に指定されてはいる。内くなくよから。や、軽やかで過な衣文など。代々の作風がよく伝えられていた。長閑な神仏とこれとてきたためから。拝堂は形もさわめてよく、金色に輝く光背の美しこと共に一同ありと思ふ。

境内に長さ四メートルくらい洞窟があり四十余体の石仏が伺われてはいる。懐中電燈の光をたよりに奥へ進むと湿度が滴り、泥濘く、身体全身が冷やりと恐怖さえ感じられて登るをあげながらも全質無事に一巡する。

茶蔵の首塚へとバスは走る

双侠の杓のまに愛珠抄

一本は三つ、二つが吹き、一本はまたうすすめどりのつほみが一片たり返つてはいる。あ、これが助五郎か。こちらが茶蔵かと花に手を触れながら。想ひは。お互いの立派の仁徳の場面に頭をかすめる。秋の彼岸を前に掃き清められた。所々有様に。愛珠抄が吹き乱れる。頭にかの双侠は仲良く。志士。測である。

宇佐見春波記



日記 (2) とろどろ
押尾翠村記

筆者押尾翠村氏 (M25-S22) は酒々井町の王人にして水野宗舟の記にして高く評価されているものす。

前号 (第12号) より

(明治6年)
7月2日 加村県、千葉町妙見寺に引移り
飯果に相用申候

(明治7年)
2月3日 千葉町妙見寺飯果にてランプ取
落し失火相成り四ツ時(10時)
流失、其の後は永迎寺にて御用
取扱申候。

3月7日 芝山仁三様、佐倉甚大寺にて十
八日まで閉帳は候。

5月1日 本県音請に取掛り、7月20日本
県へ引移り役所開きと致し申候。

(明治8年)
1月25日 25日より28日まで雪降り、1
尺6寸(48.0cm)積り申候

(明治9年)
1月9日 9日より11日まで雪降り1尺4
寸(42.5cm)積り申候

(明治10年)
8月2日 西南戦争、佐倉聯隊は高崎に進
撃申候。

(明治11年)
4月 成田山新勝寺身代札、多く売れ
申候に付、村方の者へ金二百五
十両被下置候

11月21日 佐倉甚大寺に於て、飯後所、部
役所去来るまで御用致され候

畑作不作に付、11月21日奇合の
上ノ儀に付、5升宛切引致し申
候

下総種番場傭人、米国人ジョン
ス、久能村藤河某に斬りつけら
れ重傷を蒙り申候。

(明治12年)
9月2日 小學校音請始の、大工は大野敬
太郎にて10月11日棟上と相成
11月中に屋根葺き申候

(明治13年)
2月9日 小學校開き致し申候

(以下次号)

新入会員の御紹介

180 奇藤勝之助
181 締貫敏雄



郷土研
同誌



◇六月十六日(三)

郷土研役員会と青年研修所で開催
第三、同半期の事業計画その他を協議

◇七月七日(三)

古文書学習会 青年研修所
鳥回家文書の解説

◇七月二十一日(三)

野草の会 京成佐倉駅集合
佐倉草笛の丘まで歩きながら観察
草笛の丘を見学、参加者十四名

◇八月十一日(三)

古文書学習会 青年研修所

◇八月二十一日(火)

夏期郷土史講座見学会
加草利貝塚(猪苗代町)、千葉寺、
泉美町館、天台宗聯合運動公園等の見学
参加者二十三名

◇九月十八日(金)、二十一日(金)

断外定跡見学会 参加者六十三名
神崎西、城貝塚(鮎子方面)

◇九月二十五日(火)

郷土研役員会 青年研修所

郷土史講座 (馬橋)

鷲尾余遺跡発掘経過と

酒々井地方の古代文化

「酒々井町」に古代文化が存在したのだろうか！
 その分布は！ その規模は！ その実体は！
 畑の中から次々と土器片の中に、古代史の謎とロマンを秘めて、昨年暮より始まった馬橋鷲尾余(わしのびよ)遺跡の発掘調査は、今年の六月に終え、現在は総まとめの報告書作成の段階であるという。弥生時代の住居跡が数多く認められ土器等の出土物も多く、聞く。その発掘の経過と、まとめ、今回の発掘団長、渋谷先生の熱い講話に直接耳をかたむける機会です。

十月十七日(土) 午後一時三十分
 酒々井町 青年研修所

講師 渋谷興平先生

(馬橋遺跡発掘団長)



町内史跡めぐり

11月25日(日) (AM 9:30 青年研修所集合)

品 お弁当持参にて

- 上 岩橋貝層
- 横 穴古墳(カンナムロ)
- 本 佐倉城址
- 行 門明神
- 橋 便塚

会計報告

紙面の都合上かんたんに

- 8月21日加曾利貝塚方面は 差引不足分 ¥4,300。
 - 9月18日、21日の見学会は 差引残 ¥2,400。
- 以上報告いたします。

